



北鎌倉だより



台峯で汗を流そう！

目次

■巻頭言 トラストの集い報告	2
■台峯周辺緑地の保全について	3
■歩く会	4
■山の手入れ	5
■台峯緑地地図	6
■モニタリング 2009年度の台峯保全連絡会の活動	8
■川上さんのちょっと昔の物語	9
■ハンの木・ハゼの木	10
■台峯の「葉だまり」伝言板	11
■台峯の自然	12

巻頭言

石黒ひで

「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」という名が示すように、鎌倉市が12年前に、台峯の一角の開発を不動産会社に許可しようとしたとき、その様な事を防ごう、北鎌倉の住民が結成した会です。鎌倉時代以来、東慶寺と浄智寺の二つの禅寺の上は緑の樹に覆われて来ました。それなのに、様々な形や色の屋根の家が建てられる等、考えただけでぞっとします。

毎月第3日曜日、会員以外の方にも呼びかけ、久保さんに山の動植物の説明をして頂きながら谷間を歩きます。ヨーロッパで、オーストリアのガイド等に導かれて山歩きをしたことを思い出します。ドイツと異な

り、オーストリアは、工業がなく、人、自然、そして音楽を通して他国の好意を伸ばしていることが沢山あります。

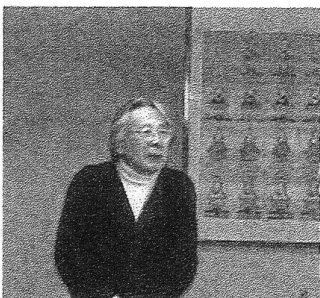
鎌倉市でも常盤山、広町そして台峯、と三大緑地が保全されました。従来のように宅地を増やし、人口が増大して、収入も増えるよりは、緑そのものが鎌倉の資産である、と信じるようになったと思われます。この資産を豊かに次の世代に残すことが、これからの課題です。このような夢を持つ若者方が参加してくださることを何とか実現することが、私たちの次の目的です。今後のためにもご遠慮なく、是非お子様をお連れください。

トラストの集い報告

当「基金」が発足して10年目の、11月23日、小春日和のなか、山ノ内光照寺で恒例の「会員の集い」が43名の参加を得て開催されました。

石黒理事長の開会の挨拶に始まり来賓として、毎年、当「基金」に多額のご寄付をいただいている、みどりショップ代表の前田さんから激励の挨拶を賜りました。

続いて本田理事から活動報告として、この一年間の台峯での会員による作業内容と活躍ぶりがパネルを使用して分かり易く説明されました。



今年80歳を迎えられた、なだいなだ先生は、鎌倉の山を



しての墓地の乱立を懸念され、ご自分としては自然葬を理想とされ、墓地不要説を展開されました。また、この会を通じて新たな友人を得られたことは貴重な経験であったことが披露されました。

休憩を挟んで久保理事から「台峯の現状」として、鎌倉市の「基本設計」に基づく保全作業の問題点として、池の保全、草地の保全、

水路の保全、森の保全、と項目ごとに現状と対策の必要性を説明され、手入れだけではなく、その結果を調査分析する必要性、市民の手による参加活動が求められていることが強調されました。続いて、市川理事から包括的に鎌倉のみどりを保全すべく緑政審議会に提

出する「みどりの基本計画」に市内六ヶ所の自然配慮地区の挿入を要望する意義と経過を報告しました。最後に、参加者から今後の「基金」の在り方、要望等意見を求めましたが、多くの発言はなく、平穩に集会を終えました

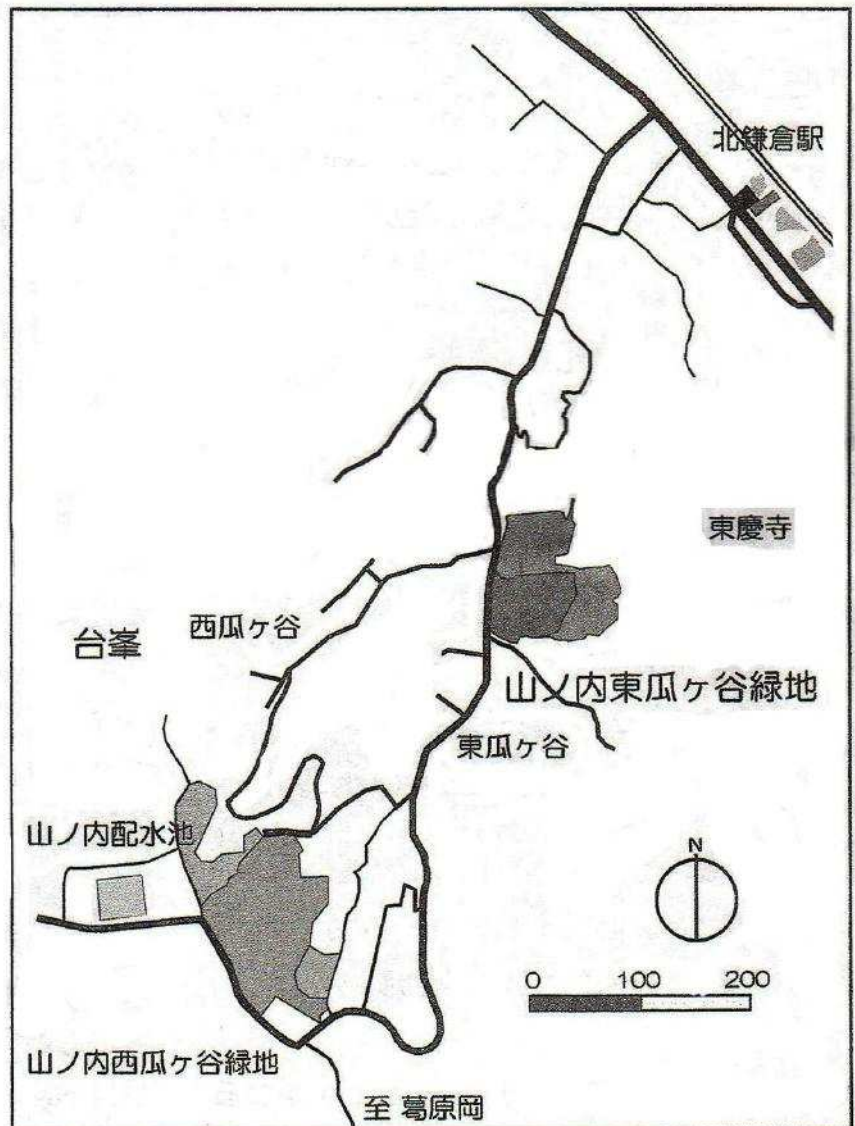
小田原茂夫

台峯周辺緑地の保全について

トラストの集いで報告いたしました。私たちは台峯緑地を緑の孤島にしないようにと、周辺緑地とつながる緑の回廊の必要性を訴えています。昨年9月にその思いを平成22年度緑の基本計画改訂にあたっての意見書として鎌倉市に提出いたしました。その中で保全の必要性を提言していた8箇所の緑地の一つ「山ノ内東瓜ヶ谷緑地」は、昨年12月鎌倉市議会で保全の報告があり、同議会で取得のため補正予算が採択されました。

「歩く会」で台峯に向かう道沿いにある緑地で、全体として約1ha(9,102㎡)。そのうち東慶寺、浄智寺の裏山に連なる緑地で、古都保存法により保全される区域(6条、それに準ずる4条地区の6条地区への格上げ)に隣接する約3,360㎡の斜面と平地です。これで山ノ内西瓜ヶ谷緑地の保全に続き、北鎌倉の緑の回廊がまたつながったこととなります。

注「西瓜ヶ谷緑地」はテニスコート開発予定地となっていたが、台峯と葛原が岡の緑との結節点として貴重な場所であることから、保全となった。買い取りに役立ててもらおうようにと、当会をはじめ2つの隣接町内会が鎌倉市の緑地保全基金に寄付した。



歩く会

この会は、1998年11月「台峯トラスト」設立と同時にスタートしました。従って今年の1月で11年2ヶ月が経過、月1回の開催で135回、参加人員も約3,000名となりました。

当初は「台峯開発反対運動」の一環として、「台峯は何処にあって、どんな所なのか？そして何故残さなければならぬのか。」そんな疑問に答える為の現地調査が発端でした。2004年保全が決定されてからは、「自然観察」に重点が移り、同時に「山道の手入れ」等の作業も行っています。自然観察が好きな人、手入れが好きな人、両方好きな人、と拮角りをみせています。

大げさに言えば、このような歴史を背景に続けている「歩く会」です。「台峯の緑の保全」を共通の認識として持ち続けながら、今後も歩きたいと思えます。皆で守った「台峯に緑」なのです。



山ノ内公会堂で活動報告と歩く会のテーマの説明を聞く
2009年7月～2010年1月

1. 基金からの活動報告

●テニスコート造成計画反対運動にかかわる

基金の寄付について。

●ホテル観察会(4回) マツムシを聴く会(2回)の報告

●「台峯保全連絡会」に報告(他団体及び行政) 会員の集いについての報告

●「緑の基本計画について」の意見書提出

●「台峯カレンダー」紹介、販促

●他団体との交流—緑ショップ、トトロの森 緑財団、コア北鎌倉

2. 自然観察

●ホテル観察会

●7月に見られる花—コヒルガオ、ハンゲシヨウ、ダイコンソウ、ヤブミョウガ、カラスザンショ

●谷戸の池及びその周辺の生き物—ヨシノボリ、ホトケドジョウ、マシジミ、ウシガエル

●マツムシを聞く会—エンマコオロギ、オカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、カンタン、アオマツムシ

●トンボの仲間—ウスバキトンボ、アキアカネ、ショウジョウトンボ

●秋の草花—キンミズヒキ、ヨメナ、ツルボ、シラヤマギク、ナンバンギセル、イヌタデ、ツリフネソウ、ミゾソバの群落

●イネ科の植物

●紅葉する樹木—ハゼ、カラスザンショ、エノキ、ハリギリ、コナラ、クヌギ、アカメガシワ

●落ち葉のいろいろ、服にくっつく実



●冬の野鳥—ヒヨドリ、カシラダカ、メジロ、ツグミ、カワラヒワ、ホオジロ、ヤマガラ

ツグミ

望月晶夫

山の手入れ

台峯「谷戸の池」が全面氷結しました。手入れ作業日(1月16日)のことです。足を踏み入れればすぐ割れてしまう程度の薄いものです。霜柱も長さは10センチをこえるものもあり、なかなか壮観です。長靴をはいた足先はジンジンと疼きます。

作業には少し、つらい環境ですが春の息吹を肌で感じとれる季節でもあります。

「山の手入れ」のルーツは鎌倉市に提出した「赤道整備に関する要望書」(2002年1月)に始まります。「コツコツ」続けた手作業は今年で9年目です。参加された方の延べ人数は1,700人を超えています。作業は山道から始まりましたが今や台峯全体に広がっています。

最近の「山の手入れ」作業のうち「水路の補修」について紹介しましょう。

昨年10月9日に上陸した台風18号は谷戸の池下流の路肩3か所を崩壊しました。放置しておくと水路に沿った山道まで崩れる危険があります。補修作業は木杭(1.5m)50本さらに土嚢袋、針金をホームセンターで購入し現地まで車で搬送します。山崎小裏から



水路の路肩整備

現場までは4本ずつ束ねた木杭を両脇に抱えた人力での搬入です。作業の前日までに終了させます。

作業日の最初の作業は土嚢づくりです。結構体力勝負です。土はどこにでもあるのですが水分の少ない根のはびこっていない採掘場所を探さねばなりません。水分が多いとスコップでの掘り起こしと搬送に余計なエネルギーがかかり、それだけでくたくたです。崩壊場所まではネコ車(一輪車)を利用しますが山道だけに木の根っこや湿地など、でこぼこが多く気を抜くと車ごと放り出されます。(表紙の写真) 悪戦苦闘の作業は3月まで続きます。

望月真樹

作業内容	10月	11月	12月	1月	2月
老人の畑の草取り、ススキ刈りなど	●	—	●		
老人の畑の雑木整理		—			
畑跡地のカナムグラ除去作業	●	—			
谷戸の池下流の路肩崩壊場所の補修	●	—	●	●	●
山道沿いのヤナ刈り		—	●	●	●
カエルの産卵場所の整備		—	●		
山崎小学校裏オギハラのササの切り株除去		—	●	●	●
休耕田跡地の畦のアオキ切り取り作業		—		●	●
参加人数	18	0	20	15	13



⑥ オギ原に侵入したササの根切り

湿地の乾燥化でオギ原がササに変わりつつある。ササの切り株を土中で切り、発芽しないようにする



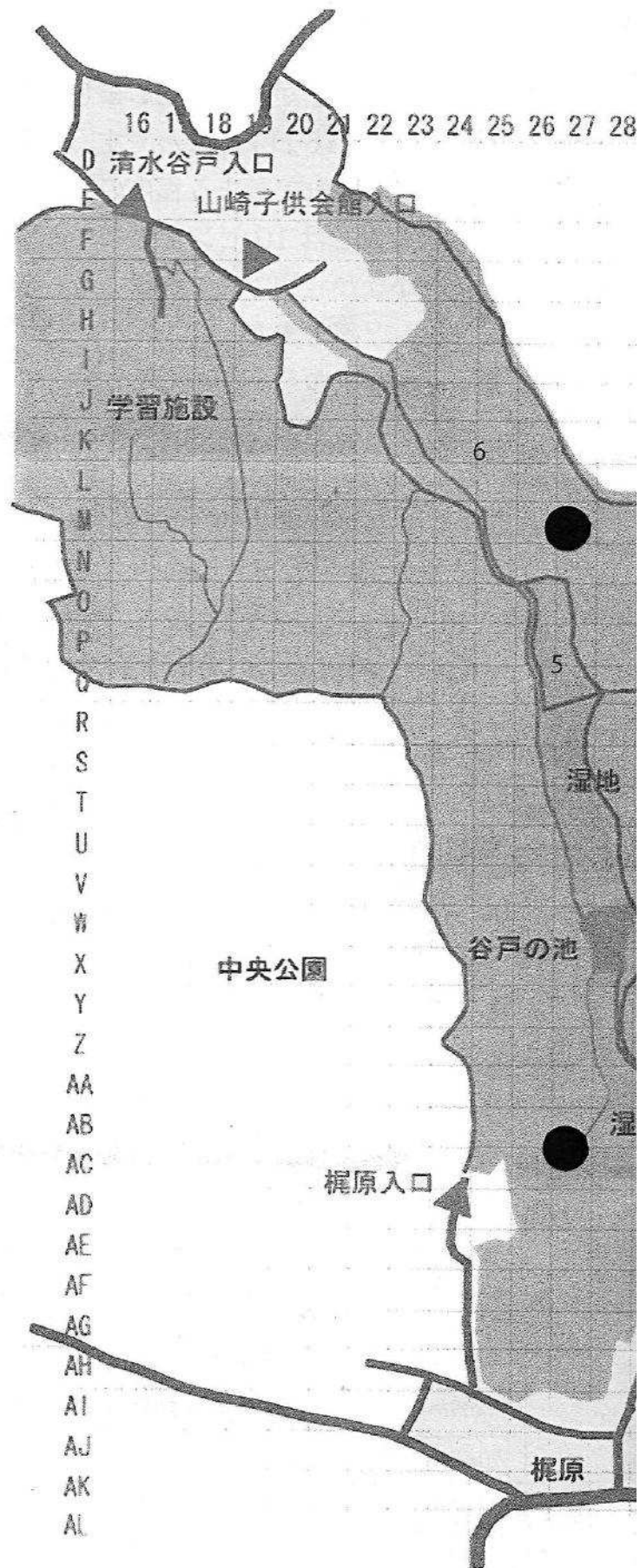
⑤ 水路の路肩の補強、整備

散策路の崩壊防止のための応急処置



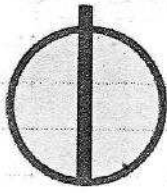
④ 山道沿いのヤナ刈り

道ばたのササは残し、奥の斜面を刈る。
野草の復活に期待して

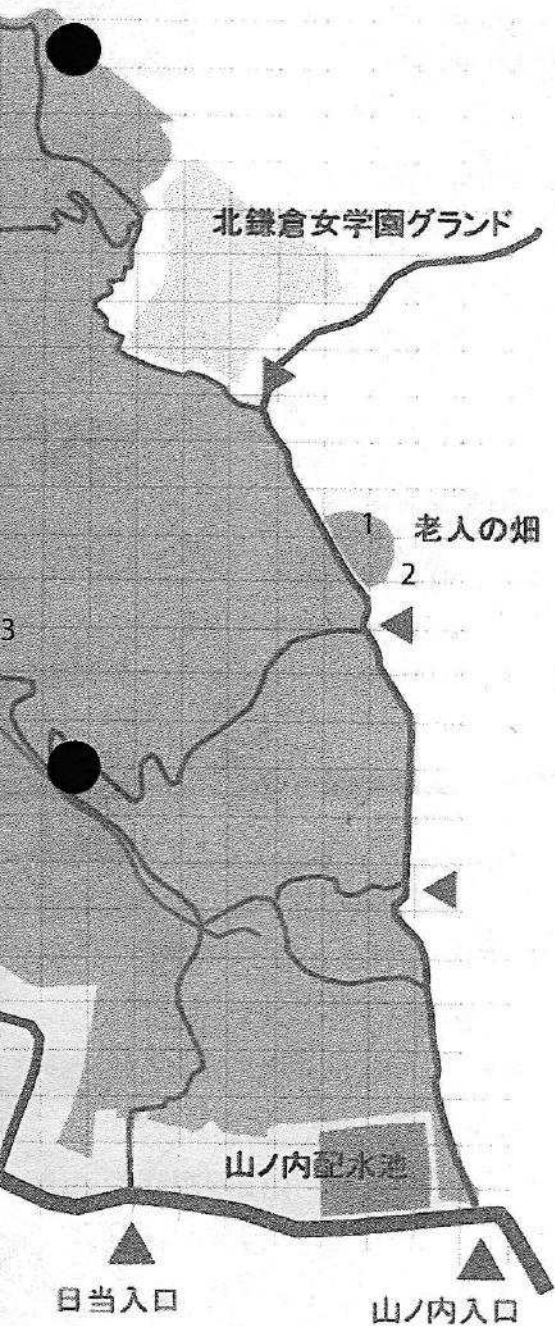


市が作成し配布した2

29 30 31 32 33 34 35 36 38 39 40



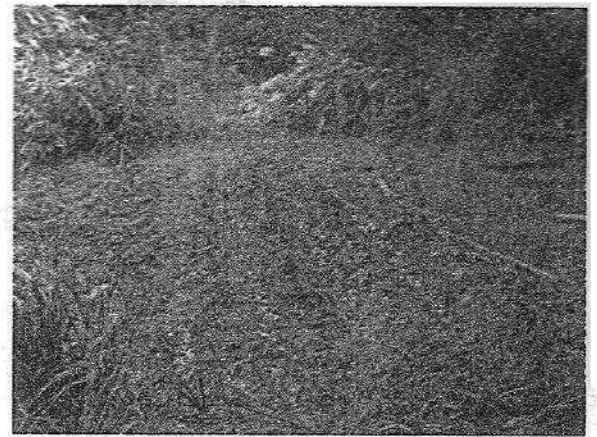
0 50 100 200



メッシュ入り地図より作成



① 老人ノ畑で、山の手入れ
作業後のお茶 緑を眺めながらの歓談



② ヤマザクラ、クヌギ、コナラ等の育苗
台峯産のドングリから育てた苗



③ 谷戸の池上流の水路の生き物調査
水路の保全作業と生物への影響を調べる

モニタリング

毎月2回、第1日曜日の08:00 - 10:00と第3日曜日前日の土曜日の同じ時間帯に台峯を皆さんで歩きつつ、気付いたことなどマップ上に記録するモニタリングを行なっています。といっても雨天などは中止になり、時間は十分ではないので、毎回ある程度テーマを絞って行ないます。久保さんのお話も聞けますので、是非ご参加ください。

● 保全したい台峯の生物

モニタリングで歩いていて気付いたのですが、先年枯れてしまったヤマナラシの幹が、



幹が傷ついたヤマナラシ

何か動物でも爪で引っかいたように樹皮がはがれています。景色の中でそこだけが真っ白なので人目を引くようです。写真にしてご一報くださった会員の方もいらっしゃいました。

前にもお話したことがあります。このヤマナラシはポプラの一種だそうです。ポプラというと寒い地方のもののおもわれませんが、実はスペイン語名は「アラモ」であり、たとえばアメリカは南部のテキサス州アラモ砦やニューメキシコ州ロスアラモス研究所の周りにはポプラがたくさん生えているようです(中公新書「日本の樹木」などから)。

以前移植した幼木が1本生き残っていますので、台峯のような暖地でも立派に育ってくれることでしょう。

● 活動記録(参加人数、テーマ、その他)

11月 雨天などで活動できず

・12/6 4名(カヤネズミの巣を探す、発見できず)

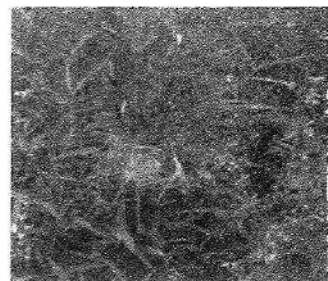
・12/19 7名(野草のタネ採取、苗にして老人の畑などで育てる予定)

・1/10 7名(野鳥調査、サクラなどの樹皮に癒合剤塗布)、

・1/16 8名(野鳥調査、今回に限らず冬鳥が少ない、池面が全面凍結)

・2/7 6名(リスの巣を探す、ヤマハンノキに花が咲くなど春の兆し)

本田隆史



カヤネズミの巣

2009年度の台峯保全連絡会の活動

台峯緑地の一般公開まで、台峯の自然を良い状態で保全するため活動しています。現在は当基金とフレンズオブかまくら台峯のメンバーが中心となり、月に4回ほど台峯に入っています。草刈りなどの作業や、貴重な生物の分布などを調べるモニタリング調査を続けてきました。活動後、台峯の緑を愛でながらのお茶会も好評で、新しい仲間が増えました。さらに月1~2回、鎌倉市公園海浜課の職員と台峯を歩き、作業後の視察や保全作業を一緒に行っています。現場の活動を行政の担当者に体験してもらうことで、会議の際の意見交換も円滑になりました。保全

作業の詳細は6P～7Pを参照してください。台峯を歩いていただくと、畑跡地（通称老人の畑）周辺の手入れが進んだこと、オギ原の一部を刈り取ったこと、散策路沿いの斜面奥のササを刈ったことなどが景観の変化として実感できると思います。また散策路沿いで倒れそうになっている傾いた木を、公園海浜課に何本か伐採してもらいました。今後の課題として、谷戸の池へ流入している土砂量を把握すること、オギ原の一部が乾燥化してササが浸入していることへの対策が挙げられます。来年度から谷戸の池の流入口に沈砂池

を設け、水路から池に流入する土砂量をモニタリングします。また山の斜面に粗朶柵を設け、山から崩れてくる土砂にも留意することにしました。オギ原の乾燥化については、水を引くなどの抜本的な対策が立てられませんが、ササの根を除去することで対応しています。今まで台峯の保全に適した手入れ手法を確立すべく、今まで様々な作業を試行してきました。これらの成果を「台峯維持管理方針」としてまとめる作業を行政が主体となって進めています。当会が提唱する実質的里山保全の手法が判りやすい形になることを期待します。

久保廣晃

川上さんのちょっと昔の物語

今から六十年以上昔のこと、いつも人の手が入っていた里山のせいか、台峯周辺にはヤマユリが沢山あった。段々畑の土手広い斜面の萱場 松林や杉林が伐採された草山など、特に一面刈り取られた坊主頭のような萱場はヤマユリの芽を容易に見つけ出せるのだ。

子ども達は芋ほりノミを手に広い萱場に散開する、切り株の間に十センチほどに伸びた太い芽を探し回る。細い芽には目もくれない、仲間より花を沢山咲かせそうな太い芽が目当てだ。一本の茎に一つの花を咲かせるのが一年ユリ、二つ咲かせるのが二年ユリを呼んでいた。一年毎に花を増やしていくと云われていたが、子ども達は俗説であることを知っている。

採取した年に十個の花を咲かせたものが数年で五十個位の花を咲かせたこともある。子ども達は掘り取った芽の太さを競い合う、まだ十センチくらいの芽ではいくつ花を咲かせ

るかわからない。それぞれ子ども達は自分の家に移植して花の時期を待つのだ。やがて花の咲く季節には家々のかたすみに沢山の花をつけたヤマユリがふくいくとした香りを漂わせて咲いていた。その頃、台峯のヤマユリも子ども達の目のこしと、見向きもしなかった花数の少ないものが草陰に白い花をのぞかせてあちこちに咲いていた。

川上克己





ハンノキ

ませんが、私の郷里、越後平野の遅い春、白い雲が山並みを離れ、人びとが田畠の仕事を始めるころの情景にぴったりで、好きなうたの一つです。刈り入れや脱穀が機械ですまされるようになるまでの田圃では、どこもあぜ道に枝を伐られてヒョロヒョロとまっすぐのはんの木が等間隔に植えられていました。秋、はんの木に渡した竹竿に刈りとられた稲束が一面にかけられ、香ばしい匂いを放っていたものでした。

今はんの木は台峯を象徴する一つになっていますが、たしかにこの木はほとんどまっ直ぐに伸びるのですね。“はん”は榛と書きますが、この字は“はり”ともよみ、又、“はしばみ”も同じ漢字です。辞書によりますと、“はしばみ”は高さ約三メートル、かばのき科の落葉灌木、それに対して“はん”、“はり”は、かばのき科の落葉喬木、高さ約20メートルに達するということなので、字は同じでもこの二つは別の木なのでしょう。“はん”は“はり”の撥音便ということですが、おもしろいのは“はん”とよむ時は“はんの木”と言い、単独の時は“はり”と言うらしいのです。

ところで、こうしたよみ方をするもう一つの例を思いつきました。台峯には谷戸の池の傍や配水池の上、秋立つのを待っていたかの

はんの木・はぜの木

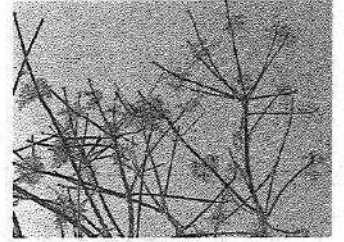
はんの木に鳥芽を食むころなれや 雲山を出でて人畑を打つ 正岡子規のうたです。四国松山出身の子規が、このうたをどこで詠んだかしり

ように紅葉し、長く鮮やかな色を保っているはぜの木があります。

「老人の畑」の斜面などにもまだ丈の低い幼木が何本もあって、草刈の時、うっかり素手で触ろうとして「かぶれるよ」とご注意頂くのですが、山の手入れを一緒にしてくださる人の中に豪傑(?)がいらっしゃって、2、3年前、庭樹にするからと抜いてあった幼木を持って帰られた方ありました。多分、今はお庭を美しく彩っているだろうと思います。“はぜ”は“櫨”とむづかしい字を書くのですが、これは又“はじ”とよみ、どうやら“はぜ”の場合は“はぜのき”というのが普通で、単独でよぶ時は“はじ”らしいのです。漆やローソクの原料になりますが、その鮮やかな色合いは昔から好まれたらしく、王朝の襲の秋の色目として、男女ともに、“櫨紅葉”というのがありました。表は濃蘇芳(暗紅色)裏は黄色です。鎧の緞にも上を櫨色に、末を黄色のグラデーションにしたのが好まれました。この場合はすべて“はじ”と読みます。

もう一度“はんの木”に戻りますが、“はんの木”はあまり寿命が長くないようです。沢山小型の松ぼっくりみたいな実が落ちているのですが、湿地があまりにもぐちゃぐちゃで、実生は難しいということで、今、それを拾って発芽を試みています。市役所の屋上のプランターでは二つかわいい芽が出ています。私どもも持ち帰っているのですが、はんの木二世の行末を長い目で見たいと思います。

和泉あき



はぜの梢

台峯の「葉だまり」



11月13日北風が冷たい市ヶ谷駅に降り立った。長年続いた官僚支配から解放され、その真価が問われる「事業仕分け」の現場を見たいと思っていたので。新聞・テレビの過熱気味報道をよそに、駅前には現場へ案内する人も案内図もない。「靖国通り」に沿った、少し広めの歩道をネット検索で見つけた地図を頭に浮かべながら歩き始めた。しゃれたブティック、オフィス、ホテルなどをぬけてしばらくすると突然右側に城壁のような石垣が立ちはだかる。高さは10メートルをこえ、長さも数百メートルに及ぶ巨大なものだ。あとで防衛省の本丸とわかっておもわず身震いした。車の往来がはげしい靖国通りと石垣にはさまれた歩道は陽がさえぎられ、人影もまばらで、空気もよどんでいるようだ。昨夜の雨でぬれた落ち葉がびっしりと張り付いている。その上に新たな落ち葉が着地点を見つけられずうろたえている。葉のかたちからけやきとプラタナスの落ち葉だろうか。見上げると城壁の上部にはいくほんものケヤキとおぼしき巨木が見え隠れしている。落ち葉たちは数日中にもえるごみ」と一緒にかたづけられてしまう

のだろうか？この落ち葉にいのちの輝きは見当たらない。ただ己の不運を嘆くのみだ。

落ち葉はこの時期、どこでも見られる。「台峯」もまた初冬の陽を透かして、真っ赤に燃えたはげ、赤や黄色の桜、茶色のコナラ、クヌギ、そしてクワ、ミズキ、エノキなどが色とりどりに染まる。風が吹くと色づいた葉っぱはカサカサとざわめきながら地上に舞い降り落ち葉になる。山道にはところどころに落ち葉の「葉だまり」が出来る。「雪だまり」からの連想だが正式な日本語だろうか。くるぶしほどに積もった「葉だまり」をかきわけながら歩く感触は格別だ。「紅葉は目で楽しみ、落ち葉は足裏で楽しむ」ものと思っている。落ち葉をつま先で蹴り上げると、一瞬ひらひらと乱舞し訪れる人を歓迎してくれる。台峯の「葉だまり」は毎年だいたい決まった所にできる。地形と山道の幅そして周辺の樹木の種類の微妙なバランスが保たれているところだ。台峯緑地八万数千坪のなかでも数箇所すぎない。「山の手入れ」に何度か参加しているうちに辿りつく「秘密のありか」だ。

望月真樹

伝言板

●カレンダー「台峯の四季」2010年版
お陰さまで、ご好評頂き、完売いたしました。

新規会員募集中

年会費 2,000円

会費及び寄付金の振込み先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報 21号

発行日 2010年3月5日

発行者 NPO法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局 〒467-0062 鎌倉市山ノ内704-9

(和泉方) Tel 0467-47-9892

Email aramaki@gw3.u-netsurf.ne.jp

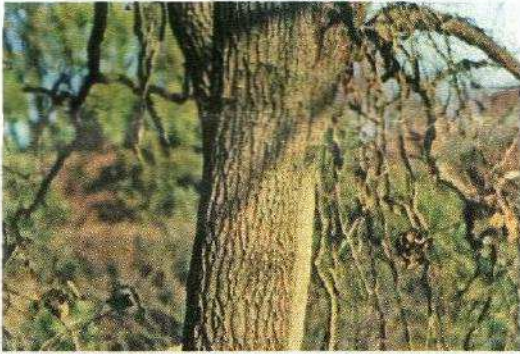
HP <http://www.kamakura-daimine-trust.org/>

写真提供：池 英夫・石原瑞穂・市川和夫

台 峯 の 自 然

よく似た雑木林の樹木

コナラとクヌギは燃料や肥料（木の葉が腐葉土になる）として有用なことから大切にされ、雑木林の代表的な樹種となっている。クヌギもコナラも近縁（ブナ科）のよく似た種類だが、慣れれば見分けるのは容易である。



クヌギ コナラとよく似ているが、樹皮はコルクの様に分厚く、深く割れており、色は暗い褐色



コナラ 樹皮はクヌギほどではないが分厚く、割れている。色はクヌギより明るい褐色



イヌシデ 樹皮は白いスジガ非常に目立つが、割れていないので、クヌギやコナラと区別できる。

よく似た大木3種類

ケヤキ、エノキ、ムクノキは、大木になるので、昔から名前が良く知られています。しかし近縁の種類（ニレ科）であり、木の葉や樹形が似ていることから、正確に見分けられる人は少ないようです。



ケヤキ 樹皮はつるつるしている。樹皮にスジや割れ目はない。色は灰色。材木として有用。



エノキ ムクノキやケヤキと違い表面はざらざらしている。アバタのようなものは触るとポロポロとはげる。



ムクノキ 樹皮はつるつるしている。樹皮に細かい縦のスジがあるが割れ目はない。色は白色で目立つ。